

い様に思う。

終りに今後の問題として取付け布が汚染された時のクリーニングに耐える材質の選定と、又取付け、取りはずしの簡単な方法等も考えて行きたいと思う。

15) PMD児の衣服(ジーンズ)の改良を試みて

国立療養所東埼玉病院

茂 泉 和 子 加 藤 栄 子
諫 山 和 代 渡 辺 幸 子

<はじめに>

当院PMD児の衣服は比較的布地が柔らかく、伸縮性に富み、介助しやすいジャージ類を着用させていますが、年齢が大きく障害度の高い患児の、ジーンズ着用を希望する声が多く、また、保護者も子供の希望をかなえてやりたい意向にて持参するため、介助者としては拘縮変形のある患児に着脱しやすく、危険の伴わない方法を考え、試作着用させてみました。

<方 法>

1. ズボンの両脇にファスナーをつける。
特に骨盤の広い女兒に使用する。

写真1.



写真2.

2. 片足外側にファスナーをつける。
特に拘縮のひどい患児に使用する。

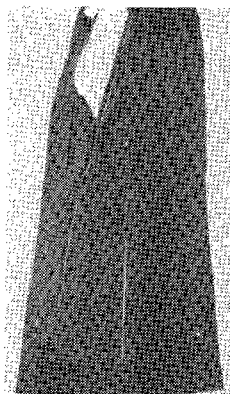


写真3.

3. 片足外側膝関節までファスナーをつける。
2の同じように拘縮のひどい患児に使用。



写真4.

4. 股上体の前あき縫代までファスナーを
延長し、つける。
排尿介助がしやすいよう、また患児が排
尿を一人でできるよう試みる。

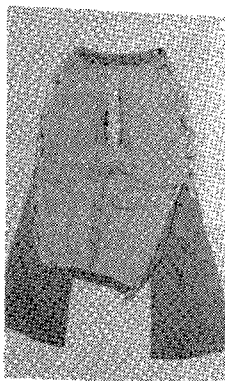
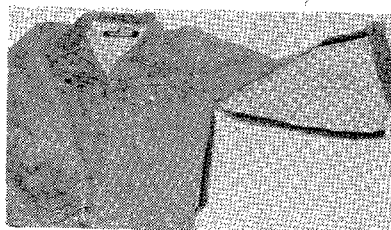


写真5.

5. 上着袖下から脇にかけファスナーをつ
ける。
下着類などが上がってしまい、狭い袖口
より引き出す困難をさけるため試みる。
以上5点試作しました。



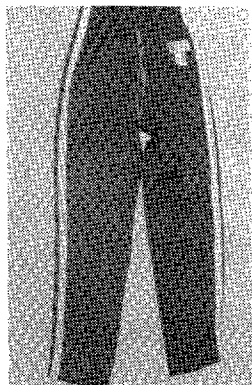
<結 果>

改良途中において、病棟替えによる患児の移動があり、また冬に入り、ズボン下の着用などがあり、思うようにまかせぬまま困難をきたしました。なお、はっきり成功したと思われるものとしてここに述べます。

方法の4の場合、排尿介助が容易になりました。当病棟では新しく購入したズボン、ジーンズに限らず、ただちにファスナーを購入し、股上身の前あき縫代までファスナーを延長し着用しています。

写真 6.

このようにジャージ類にもファスナーをつけ、使用しています。



方法の5の場合には、下着の袖口などが上がらず、狭い袖口より下着を引き出す困難がさけられ無理なく着脱ができました。

このような点では、患児また介助者にも良い結果を得ています。しかし、方法1、2、3の場合には、ベッド上にて仰臥位の状態で着脱するには容易であり、また車椅子上にて排泄介助をする時脱ぐ場合は便利ではありますが、着用時は坐位のため、ファスナーの操作がしにくいなど、短所が目立ちました。ただし、下肢の骨折時など包交介助を要する患児には、以上3点については不成功とは思われません。

また患児の感想の結果を述べます。方法の1、2、3に対しては、ファスナーの金属部が直接肌にふれ、冷感などの不快感を訴えたり、ファスナー操作時の皮膚にくいこむ不安感などの不満が多く、良い結果が得られず、方法4に対しては、排尿介助が容易であり衣服を汚さずにすむなどの成果がありました。

方法5に対しては、下着の袖口が上がらず一人で更衣が可能になり、成功と思われましたが、ファスナーの操作が不可能なため、ファスナー操作のみの介助が必要とされます。

以上の結果を得ましたが、決してすべてが成功におわらなかったこと、なお一層の努力を必要とされ、更に良い方法と患児の希望にそえるよう考え、工夫していく必要があると痛感しています。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<はじめに>

当院 PMD 児の衣服は比較的布地が柔らかく、伸縮性に富み、介助しやすいジャージ類を着用させていますが、年齢が大きき障害度の高い患児の、ジーンズ着用を希望する声が多く、また、保護者も子供の希望をかなえてやりたい意向にて持参するため、介助者としては拘縮変形のある患児に着脱しやすく、危険の伴わない方法を考え、試作着用させてみました。